**第１０回市民自治推進委員会　まちづくり部会議事録**

（敬称略）

◆開催日時：平成２９年７月２１日（金）　１８時３０分～

◆開催場所：市役所２階　第２委員会室

◆出席部会員：部会長　　中原　義勝

　　　　　　　副部会長　渡部　雅子

　　　　　　　部会員　　山田　正幸

稲葉　一彦

川島　雅司

　　　　　　　　　　　　成田　育磨

　　　　　　　　　　　　松田　　毅（協働推進庁内委員会部会長）

【市民生活部次長】

　　　　　　　　　　　　笠井　康之（協働推進庁内委員会副部会長）

【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

◆欠席部会員：部会員　　田中　寛志

　　　　　　　　　　　　工藤　隆行

　　　　　　　　　　　　松本　崇之

◆事　務　局：　　　　　笠井　康之（庁内委員会兼）

　　　　　　　　　　　　　　　　　【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

伊藤慶一郎【市民生活部市民協働グループ主査】

◆議　　　題：健康座談会の報告や今後の予定、また、まちづくり部会としての今後

の方針について

**≪事務局≫**

　６月１５日に開催されました、第４回部会長・副部会長会議の概要を説明したのち、本日の進行を部会長に引き継ぎたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

部会長・副部会長会議において説明及び情報提供した資料を、お手元に配付しております。

まずはクリップ止めしております資料の、Ａ３横版の資料１をご覧ください。

部会長・副部会長会議までに各部会において協議され、今後、実施することとしている、「健康」に関する具体的な取組を、一番右の“現時点での取組予定”欄に整理・記載しております。

　会議に出席された各部会の部会長・副部会長から、それぞれの部会の取組について説明がありました。

ぬくもり部会では、委員の皆様にご協力いただき実施した、「特定健診に関するアンケート」の結果について、資料２を基に説明がありました。

このアンケートは、健康を維持し、医療費の抑制を図るためには健診の受診率の向上が必要であるとの考えのもと、まずは市民自治推進委員会の委員がどの程度、健診を受診しているのか、などを調査する目的で実施したもので、特定健診を受けている委員は全体の３分の２に当たる６３％という数字が出ております。

同部会では今後、今回のアンケート結果を基に、更なる受診率の向上に向け、どのような取組ができるか、協議していくこととしております。

　防災・環境部会では、防災訓練による市民の防災意識向上ということで、各地区連で行う防災訓練の参加人数、場所、時間など、各地区連間でデータを共有することにより、他の地区連の良い点を取り入れていくということと、社会教育グループのウオーキングマップがリニューアルされた後、防災・環境部会の委員で実際にコースを歩いて、避難場所を確認し、その後、各地区連に避難場所のウオーキングの実施を依頼することで、近隣の町内会の避難場所の周知徹底も併せて行います。

　産業躍動部会では、健康推進グループの事業である「食育おやこ料理教室」において、夏は７月２７日、２８日に、登別漁港で水揚げされる水産物を使用し、冬は１月１２日、１３日に、登別牛などを使用した料理教室を開催します。

　また、商工労政グループの事業である「婦人センター講座」において、登別漁港産の秋サケや登別牛、のぼりべつ牛乳を使用したレシピをそれぞれ考案した中で料理教室を実施することとしており、こちらは１１月中の開催を目指して協議を進めているところであります。

都市調和部会では、社会教育グループが行う、「きらり健康ふれあいウオーキングマップ」の増刷に合わせて、部会で出たアイデアを取り入れてもらうため、協議を進めているところであります。

また、千代の台団地の建て替えについてのアイデアも提案しています。

育み部会では、あまり利用されていない公園の利活用について検討を進めており、若草町にある「のびのび公園」の利活用について、協議を進めているところであります。

まちづくり部会では、川島部会員に講師を依頼し、ロコモティブシンドロームの予防法に関する“健康座談会”を６月１７日鷲別公民館、１８日市民会館、そして２５日婦人センターの計３回開催し、いずれも２０名程度の参加があるなど、参加者からは大変好評でした。

参加者を対象としたアンケート調査の結果も集計できましたので、後程ご報告させていただきます。

続編の座談会を７月２３日（日）、８月２０日（日）の日程で、市民プールらくあにて開催する予定であり、本日時点で２５名の申し込みが来ております。

その他、受動喫煙の防止等についてですが、道の受動喫煙防止条例の動きに合わせ、登別でも受動喫煙防止を進めていく必要があり、市民自治推進委員会においても逐次、情報提供していくこととしておりました。

北海道の条例案や条例制定に向けた動きをはじめ、道内の市庁舎における分煙状況、国の法改正に係る報道、また、道医師会が行う署名まで、新たな情報がありますので、皆様には資料３－１から３－６までの新聞記事を６枚お配りしております。

資料３－１は５月１８日付けの記事で、道議会の「受動喫煙防止条例」の原案についての内容、資料３－２は６月１３日付けの記事で、「受動喫煙防止条例」の制定に向け、道が関係団体との意見交換を開始するという内容、資料３－３は５月２３日付けの記事で、道内３５市庁舎の建物内禁煙の実施状況についての内容、資料３－４は５月１６日付けの記事で、たばこの受動喫煙対策を強化する「健康増進法」の改正を巡り、自民党内でも対策案に溝があるとの内容、資料３－５は６月６日付けの記事で、自民党内の溝が埋まらず、法案成立は秋の臨時国会以降に先送りされたとの内容、最後に資料３－６は６月１４日付けの記事で、道医師会による、受動喫煙防止に向けた署名を実施している内容の記事がありましたので、それぞれ情報提供いたします。

　資料４は、先程お話ししました、６月に開催した“健康座談会”の関係で、委員の皆様全員に送付しました案内文の、チラシ版として参考までにお配りしております。

　また、これまでの部会長・副部会長会議でもお話がありましたが、委員長、副委員長からは、市民自治推進委員会の取組を市民に知ってもらうため、年に１度くらいは広報紙で周知した方が良いのでは、という話がありますので、市としましても現在、広報８月号での特集記事掲載に向け、作業を進めているところであります。

　続きまして、封筒の資料ですが、これは５月１９日に開催された、市連町定期総会で情報提供しているものです。

　当日同様、資料の配布のみとし、説明は省略させていただきますが、市民の皆様に情報提供したい案件を各グループから集めて提供したものですので、こちらにつきましては、時間のある時に見ていただいて、部会などでもお役立ていただければと思います。

　続きまして、ホッチキス止めしている「廃棄物処理施設に関する市の方針案」の概略について説明いたしました。

経緯としましては、今年の２月１３日に、室蘭市、伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町による、西胆振広域連合で運営している「メルトタワー２１」について、平成３６年度までの稼働であることから、平成３７年度の供用開始を目指し、新たな施設に建て替えることに決定され、これに合わせ、西胆振広域連合から、登別市と白老町も一緒に広域処理をしないか、という打診がありました。

登別市としては、人口やゴミ処理量が減少する中にあって、将来のことも踏まえて広域処理を検討する必要があるものと考え、これまで「広域に参加するのか」、それともこのまま「１市１町でクリンクルセンターを継続するのか」、「財政的負担」や「市民生活への影響」等、市民などからの意見も聞き、検討を重ねてきました。

その結果、資料の１１ページに記載しておりますが、「財政負担」として、平成２９年度から平成６１年度までの３３年間で約１３億円、年間約３，８００万円の削減効果が図られるものと試算され、単純に財政的負担だけを考えるのであれば、広域行政に参加する方が良いということになるかと思いますが、距離延長に伴う市民生活の利便性の低下や、これまで施設の余熱を活用してきた市民ギャラリー及び研修室の使用ができなくなること、クリンクルセンターで働いている方々の雇用の喪失や転出等に伴う市内経済への影響についても大きいものと考えられます。

クリンクルセンターで働いている方は５０～６０名おりますが、そのうち、３５名の方が市内に居住していることから、広域行政に参加するとなれば、従業員の殆どが転勤してしまうということも想定され、そのような場合、約６千万円以上、登別市の消費が無くなってしまう、ということになります。

それよりも一番は、自治体では企業誘致などを図っている中で、一つの企業ではないものの、５０名以上の従業員がいる団体が無くなるという事は、結果として人口減少にも拍車をかけるということにもなってしまいます。

また、市としては、一時的に大きな一般財源が必要で、資料の５ページでは年度毎の一般財源の負担額を試算しており、平成３７年度から広域の運営が始まりますが、それまでは、クリンクルセンターの稼働と同時に、建設費が重複してきます。

この重複してくる部分で、平成３６年度には一気に９億円の負担を要することとなるため、当市で負担することは大変厳しい状況です。

市が単独で行うとすれば、ある程度、平準化を図るような施策を考えていきますが、広域という性質上、他の市町に合わせていく必要もあり、財政運営においても難しいのではないかと思います。

それと、市民説明会での意見において、殆どの方が広域への参加に反対であったことや、パブリックコメントに寄せられた意見、また、登別市環境保全審議会の答申など、総合的に検討し、現時点では、１市１町によるクリンクルセンターを継続する方針としたところです。

最後のページになりますが、下から２行目に「なお書き」があるのですが、将来の廃棄物処理施設のあり方につきましては、人口及びゴミの量の減少が予想される中、今後も継続して検討していくべき課題と考えております。

併せて、広域連合による広域化につきましても、選択肢の一つとして検討していく必要があるものと考えておりますので、今後、西胆振広域連合から更なる提案があった場合については、その時点において、あらためて協議を行うこととしております。

以上が、６月１５日時点での説明です。

また、各委員からの意見ですが、今後、市庁舎の建て替えなど、大きなテーマについては、市民自治推進委員会を必ず通すというように決めていただきたいとの意見がありました。

事務局からは、市が気付かないこともあるので、そのようなことがあれば市民自治推進委員会からもお知らせいただきたいと話をしました。

　部会長・副部会長会議の概要は以上になりますが、部会長、副部会長、副委員長も出席されていましたので、補足等があれば、よろしくお願いいたします。

　最後に、本日部会で使用する資料を２点配布しております。

　１点目は、Ａ４縦の１枚モノで、６月に３度実施した健康座談会における、参加者を対象としたアンケート結果です。

参加者は６月１７日開催分、１８日開催分がそれぞれ１８名、２５日開催分は１４名、３日間の合計は５０名にものぼり、そのうちアンケートに回答いただいた方は４３名でした。

“ロコモティブシンドローム”という、言葉は聞いたことがあるが内容までは知らなかった、初めて聞いた、という方の割合は、全体で８４％でしたが、講義については理解できた、また、次回も参加したいという方の割合はともに１００％となり、参加された方々の満足度が伺える結果であったと思います。

今後、「健康」について聞いてみたいこと、開催して欲しい内容の講義については、「目（緑内障について）、鼻（嗅覚が良くなる方法）」、「睡眠時間と認知症の関係」等についての要望がありました。

　もう一つは、登別市総合計画・第３期基本計画における、まちづくり部会が関わる６章の事業内容をまとめた、Ａ４横の資料です。

　これは前回の部会において副部会長より、事業内容を勉強し、今後のまちづくり部会で協議していく必要があるのでは、とのご意見をいただいたことからお配りしております。

ただ、本日の進行具合によっては、次回の協議テーマにさせていただきたいと思います。

　説明が長くなり、申し訳ございませんでした。

事務局からは以上でございます。

　それでは部会長、よろしくお願いします。

**≪部会長≫**

ただ今の報告で、副委員長から何かあればお願いします。

**≪部会員≫**

「健康」について取り組む各部会の説明がありました。

まちづくり部会はロコモティブシンドロームの関係をやっていて、各部会の取組についてもある程度知っておく必要があると思うんですけど、やっぱり半年に１回くらいは全体会議を開いて、情報発信を通じて市民自治推進委員会全体を盛り上げていくということは、非常に大切なことだと思いました。

**≪部会長≫**

　健康座談会の講師をやった感想など聞かせてください。

**≪部会員≫**

率直な感想は年齢層が非常に高かったなと思います。

いつもやっている講座はもうちょっと平均年齢が低いです。

**≪事務局≫**

　今回のアンケートでは年齢別の集計もありまして、７０代以上の方が３１名いらっしゃってます。

**≪部会員≫**

　やっぱり体作りというのは、もっと若い時から取り組んでいかないと、何か症状が出てから一生懸命頑張りましょうと言っても難しいのかな、と感じました。

ロコモに関係した下半身の体操を、７月の続編でやろうかなと思っていたんですけど、そこまでできるのかどうか、ということも少し思っていて、もう少し対話方式にして、皆さんの聞きたいことに答えていく方が良いのかもしれません。

６月の座談会は基本の内容をやらせてもらったので、ロコモについてわかってもらえたと思います。

ただ、その次は正しい体の使い方など、どうすれば良いのかという話しにもなると思いますが、そこに辿り着くまでにはまだ時間がかかるのかなと思いました。

**≪部会員≫**

予防医学という言葉がありますが、「健康」についてを本当に真剣に考えて、医療費を削減するということを目指すのであれば、正しい知識の普及はとても重要なことかなと思います。

市としてこの「健康」についてをどう考えているか、ということを我々に標していただきたいのですが。

**≪庁内委員≫**

　各部会でそれぞれが担当する分野を考えるようになったら当然、「健康」というテーマを皆で考えていく、ということではなくなります。

基本的には「健康」という分野の主であるぬくもり部会で、各部会から上がった案を組み込んでいってもらえるよう、検討して欲しいという気持ちはあります。

　ただやはり、市民自治推進委員会として、この「健康」だけをずっと取り組んでいくということも難しいとは思います。

**≪庁内委員兼事務局≫**

　川島部会員の健康座談会も、まずは６月、７月、８月とやってもらって、市民の方に知っていただくということが大事かなと思ったのですよね。

その中で、次はそれぞれの団体が、例えばマイプラン講座を活用して呼んでもらったりだとか、ときめき大学で講師をやっていただけるのであれば、少しずつではありますが普及していくのかなと思います。

**≪部会員≫**

　ただ、行政は「呼んであげて下さい」と言っているだけではだめだと思うんです。

**≪庁内委員≫**

　基本的にはこの取組を広めて、ＮＰＯとして登別市で展開できるような形になれば一番良いのかなと私は思っています。

言うなれば、ＮＰＯとして自立し、しっかりとやっていけるような体制を作り、サポートしていくのが、私たち行政としての役割なのかなと思います。

**≪部会員≫**

　川島部会員が苫小牧などで色々講座をやっていますでしょう。

そのようなことを、登別でも広めていく、定着させていくというのが必要かなと私は思っていましたし、そのときに、市から補助金なども出して欲しいと思うんです。

参加者からは「健康」に関するデータを取り、それを１年、２年、３年というスパンで、その人達がどう「健康」になっていくのかということを数値化していく。

そのようなことができれば、予防医学にもつながり、医療費も削減されていくのだと思います。

**≪部会員≫**

　登別も医療費の問題を抱えており、このままいけば医療費がどんどん増え、大変になると聞いています。

病気を治すことにお金をかけるのではなく、病気にならないためにお金をかける方がずっと良いことで、それを市民自治推進委員会で取り上げていけば良いと思うのですが。

**≪庁内委員≫**

　行政としては取組をやってもらいつつ、話を聞いたり、相談に乗ったりと支援できるところは支援していく、というようなスタンスが一番理想なのではないかと思うのです。

市がこれらの事業を抱えるというより、極力、民間の力でできること、ＮＰＯの力でできることを進めていってもらうことこそが本来の協働であると思います。

**≪部会員≫**

　理屈はそうですね。

　ただ、予防医学がどんなに大切であると言ったところで、真剣に予防医学に取り組んでいる方も、それを講座みたくやっている方についても、聞いたことがありません。

きちんとした医学を学びながら、予防をしていこうと取り組んでいる人なんて、誰もいないと思います。

認知が進んでいない中、それを民間やＮＰＯなどがやるのは簡単ではないのです。

だから予防医学ということを本当に真剣に考えるのであれば、行政がやらなければいけないことだと思うんですよね。

　市民協働グループではなく、「健康」に関わる部署がやるべきことだと思うんです。

然るべき部署に押していかないとだめだと思うんですが、保健福祉部などにはそのような話しはしていないのですか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

　保健福祉部には話しをしています。

　実績を作っていけば、考えてもらえるようになるのかな、と思います。

**≪部会員≫**

　要するに、まだまだ予防医学について考えが進んでいないのですよ。

**≪部会員≫**

　一度、まちづくり部会で保健福祉部の担当の方達と意見交換をしてはどうだろう。

**≪部会員≫**

私が今回、健康座談会をやってみて思ったことは、せっかく市が関わってやったのだから、各地域に医学を学びアドバイスができる人材を育てていくシステムを作ってはどうか、ということです。

例えば薬の飲み方のアドバイスや、病院に行った時はこういうことを聞いたら良いとか、教えてあげられる人を育て上げてこそ、予防医学に通ずると思うのですよね。

**≪庁内委員≫**

　健康サポーター育成講座とかは良いかもしれませんね。

**≪部会長≫**

　保健福祉部があるのだから、行政が仕事として「健康」に結び付けていかないと。

ただ、ぬくもり部会にまちづくり部会でやってきた取組を引き継いでいく、ということも１つの方法ですよね、ぬくもり部会は「健康」を推進する部会ですから。

**≪部会員≫**

　今、このような話しが出なかったら、まちづくり部会でやってきた取組を、市はどうしていくと考えていましたか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

　ここで実績を積んでいけば、市の内部で認められるということもあると思うので、まだ始まったばかりですから、この取組をもう少し広げていけないか、と思っています。

**≪部会員≫**

　ですが、そのためにはやはり、本来担うべき担当にやってもらわないといけないですよ。

ここで一生懸命話していたってこれ以上進みませんし、１度、保健福祉部の職員をお呼びして、お話ししましょう。

正直なところ、健康座談会を３回やって、予防医学や市民の「健康」に一番関心を持つべき職員が来ていなかったことが残念でした。

**≪部会員≫**

　例えば、予防医学を推進していこうということを、保健福祉部に投げ掛けることはできないのでしょうか。

**≪庁内委員≫**

　それは可能です。

**≪部会員≫**

　これからはこういうような形になるんじゃないでしょうか。

それぞれの部会から案を出して、その分野を担当する部署や部会に帰属していくというような。

**≪庁内委員≫**

　それぞれの部会の皆さんが、どう考えるかという部分はあると思います。

**≪庁内委員兼事務局≫**

一番最初の全体会議で「健康」をテーマとすることを決めましたが、その時の委員長の考え方としては、立ち上げ当初であるので各部会がバラバラの方向を向くよりは、同じ方向を向いてやった方が成果が見えるのではないか、ということであったと思います。

だからと言って「健康」についてだけをやっていくのではなく、それぞれ各部会の特性があるので、「健康」以外のことも取り組んだって良いわけですが、いずれにしても「健康」については各部会、色々と取り組んでいることもありますので、「健康」というテーマを今後、どうしていくかということは、皆さんと考えていかなければいけないのかなと思います。

**≪庁内委員≫**

　まちづくり部会としてはどうでしょうか。

同じように統一したテーマを掲げてやっていった方が良いのか、それぞれの部会が考える方向性に基づき、協議・検討していった方が良いのでしょうか。

**≪部会員≫**

　新たなテーマを設ける必要はないと思います。

それぞれの部会でやっていくべきことを議論しながら、その中で「健康」に関する取組についても、必要であれば取り入れていけば良いわけだから。

その時期になれば一度総括をして、方向性を示してスタートすれば良いのではないでしょうか。

**≪庁内委員兼事務局≫**

この「健康」のテーマについては、この先も続けていくのか、また、「健康」をメインとするぬくもり部会に持っていくという考え方もありますので、その辺りを部会長・副部会長会議等で１度揉んでみて、更には全委員で話し合うということも必要ですね。

**≪部会長≫**

　明後日に開催する健康座談会の話ですが、アンケートはまた取るのですか。

これは１回来たことある人達がほとんどですか。

**≪事務局≫**

　ご報告しようと思っていたのですが、今回２５名の申し込みがあり、うち２１名が６月の講座を受けた方です。

率にして８５パーセントくらいの方ですね。

一度受講された方がほとんどなので、今回はアンケートは取らずに実施しようと思います。

【次回会議】

　●日程：８月２０日の健康座談会終了後に日程調整する。

　●内容：保健福祉部職員にも部会に参加してもらい、「健康」について、保健福祉部の考えを確認する。